

船形コロニー整備事業に対して提出された県民意見の反映状況について

宮 城 県

標記事業を対象として行った大規模事業評価において、提出のあった意見の概要及びその反映状況は、以下のとおりです。

記

- 1 意見募集期間  
平成28年7月12日（火）～平成28年8月12日（金） [31日間]
- 2 意見提出件数  
1件
- 3 意見の整理の考え方  
—
- 4 提出された意見の概要及び反映状況

意 見 の 概 要	意 見 の 反 映 状 況
<p>重度や最重度の障害者が安心・安全に暮らせる場合は、人里離れた大規模な入所施設なのだろうか。その人の生き立ちや家族等を知る身近な人々とのつながりが継続できるとともに、新たな人とのつながりを広げられるような地域社会関係を構築することこそが、誰もが安心・安全に暮らせる地域社会の実現につながる。今回の事業費の一部でも、高齢化や障害の重度化に対応したグループホーム等の整備のために充ててはどうか。</p> <p>在宅療養支援診療所など医療体制とも連携を図ることにより、大規模障害者施設の機能を地域に細かく分散できるのではないか。それが既存の社会福祉法人等では困難であるなら、全国に公募して先進的な法人を誘致することも不可能ではないはずである。</p> <p>今回の事業は、重度の障害者は地域社会では暮らせないということを認め、どのような障害者であっても地域包括ケアが目指す日常生活圏域で暮らし続けることを目指すという宮城県の施策の理念を歪めることになるため、「みやぎ障害者プラン」・「みやぎ高齢者元気プラン」など関連計画等の理念と実際の施策との間に大きな矛盾を生むことになるのではないか。</p>	<p>県では、障害者の地域生活移行を推進するため、グループホーム等の地域生活で必要とされる施設を民間法人が整備する費用の一部を補助する等により、地域での社会資源の整備を促進してまいりました。船形コロニーだけを見ても、平成15年度から22年度にかけて、計224名の方が地域生活へ移行できました。障害者が地域社会の中で暮らしていけるような施策を推進していくという方針については、これまでといささかも変わるものではありません。</p> <p>一方で、現在、船形コロニーに入所されているのは、重度・最重度の障害のある方々であり、現在の地域の社会資源では、ただちに地域生活へ移行することは難しい状況です。実際、平成23年度以降は、地域生活へ移行できた方が毎年0～2人と推移してきました。また、一旦グループホームなどの地域生活に移行した方の中には、高齢化に伴う障害の重度化等により、再入所を希望する方や戻らざるを得ない方も出てきております。</p> <p>船形コロニーの各建物は老朽化が著しく、入所利用者の生活環境の悪化は、運営の工夫だけでは補えないものとなりつつあります。ご提案いただいたような「地域分散型」での施設整備についても検討しましたが、「用地の確保」、「土地の造成コスト」、「周辺住民等の理解促進」等の課題が多く、利用者が入所できるまでには長期間を要することが明らかであり、それまでの間、年々老朽</p>

化していく現在の施設で暮らし続けることは困難なものと判断しました。なお、建て替えに当たっては、地域住民との連携や交流が図られやすい空間を創出するとともに、地域社会との繋がりを持てる仕組みを検討してまいります。

また、船形コロニー整備と併せて、例えば、医療的ケアや強度行動障害などにより支援が難しい場合であっても、誰もが安心して地域での生活ができるように、グループホームや生活介護など障害福祉サービス事業所において、受け入れが可能となるように支援策等を検討しております。

県立の船形コロニーの大きな役割は、民間で受け入れが困難となった重度・最重度の入所利用者のセーフティネット機能及び在宅や民間施設での生活が一時的に困難となった方を緊急的に受け入れるバックアップ機能を果たすことと考えております。県立施設である船形コロニーは民間施設と密な連携を図りながら、障害の重い方々の地域での生活を支える拠点を目指してまいります。

## 5 評価結果

「評価書」（別途公表）記載のとおり